

「健康長寿の日」 の制定に向けて

皆川ヨ子さんが世界最高齢者に認定された

1月29日



【皆川ヨ子さん】明治26年1月4日、福智町上野生まれ。53歳で夫を亡くし、野菜や花の行商をして4男1女を育て、孫7人、ひ孫12人、玄孫2人に恵まれた。17年4月に長寿日本一、18年1月29日に世界最高齢に認定される。7月2日に福智町第1号となる名誉町民章と県知事の最長寿栄誉表彰、ギネス・ワールド・レコーズ社(英)の世界最高齢者認定証が手渡された。8月13日、眠るように114年の生涯を閉じた。写真は世界最高齢者に認定された翌朝「ありがたいこと」と手を合わせて笑った皆川ヨ子さん。

生 前は「ありがとサンキユ」が口ぐせで、いつも感謝の気持ちを表し、時には冗談を交えながら、わたしたちに健康やかに生きることのすばらしさを教えてくれた皆川ヨ子さん。今年8月13日、静かに、眠る

忘れない。いのちの輝き。

ヨ子さんが教えてくれた

生きることのすばらしさ。

「前は「ありがとサンキユ」が口ぐせで、いつも感謝の気持ちを表し、時には冗談を交えながら、わたしたちに健康やかに生きることのすばらしさを教えてくれた皆川ヨ子さん。今年8月13日、静かに、眠る

ようにこの世を去りました。町では、その皆川ヨ子さんがイギリスのギネス社から世界最高齢者に認定された1月29日を「健康長寿の日」として定め、町をあげて健康について考える日にしたいと、現在、企画立案を進めています。



認定証(上)と名誉町民章

皆川ヨ子さんの長寿世界一という記録、そして、その記録以上に印象に残るこぼれるような、あの笑顔の記憶…。町の誇りであり、健康長寿の象徴的存在だった皆川ヨ子さんは、わたしたちの心の中に、いつまでも生き続けます。



▼「生」と「死」：人それぞれに死生観は異なっていると思うが、この世に生を享けたという

うことは、共通の事実である▼生ある者は必ず死ありと云々、生は死の始めと云われているように、生命は永遠のものではない。また、死生命ありと論語に記されているが、人の生死は天命で、人の力ではどうすることもできないということも真実であろう▼しかし、こと「死」に限れば、いかに天命といえども、家族や関係者にとつて割り切れない気持ちになることの方が、多いのではないだろうか。今月号の広報紙で特集として扱っている炭鉱事故や交通事故にまきこまれての非業の死をとげることなど、その最たるものだと思う。天寿を全うし、安らかな眠りにつく人もいれば、予期せぬ最期を迎える人もいる▼悠久の時の流れから見れば、人の一生は微小なものかも知れない。だからと言って、粗末にされていいはずはなく、むしろ地球より重い存在として、一人ひとりの生命が大切にされるべきだと思っている。世界中で平和を願う声は大きいですが、現実はそのような状況とは程遠い。理不尽な争いで、無数の生命を犠牲にしたり、一方的な論理で暴力を正当化し、一瞬にして多くの人を死にいたらしめる…こんなことが繰り返されている▼生は奇なり死は帰なりと云うが、せめて授けられた生命を、誰もが精いっぱい生き抜いて、天地の本源に帰る。そんな世の中にするために、わたしたちは互いの英知を傾けていかねばならない。

浦田 弘二